

8 理科 単元の整理

やった分だけ合格が近くなる！
昆虫

1 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫は①(節足)動物と呼ばれる仲間、この仲間は節ごとに足があり、体温が回りの温度につれて変化するので②(変温)動物と呼ばれています。昆虫の体は、頭・③(胸)・④(腹)の3つの部分に分かれています。頭には大きな2つの⑤(複眼)と呼ばれる目があり、種類によってはこの他に、⑥(明るさ)を感じる⑦(単眼)と呼ばれる目を持つものもあります。また、においや形を感じる⑧(触角)があります。そして、食べ物にあった形の口があります。成虫の胸の部分には普通⑨(2)対⑩(4)枚の⑪(はね)と、⑫(3)対⑬(6)本の⑭(足)があります。腹の部分には内臓が収められており、両側には、空気を取り入れるための⑮(気門)というあながあり、⑯(気管)で呼吸をしています。

- | | | | | | |
|---|----|---|----|---|-----|
| ① | 節足 | ② | 変温 | ③ | 胸 |
| ④ | 腹 | ⑤ | 複眼 | ⑥ | 明るさ |
| ⑦ | 単眼 | ⑧ | 触角 | ⑨ | 2 |
| ⑩ | 4 | ⑪ | はね | ⑫ | 3 |
| ⑬ | 6 | ⑭ | 足 | ⑮ | 気門 |
| ⑯ | 気管 | | | | |

2 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫の成長の仕方には2種類あり、卵→①(幼虫)→②(さなぎ)→成虫の順に成長する③(完全変態)と呼ばれる成長の仕方と、これとは異なり④(さなぎ)を作らない成長の仕方の⑤(不完全変態)と呼ばれる成長の仕方があります。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-------|---|------|
| ① | 幼虫 | ② | さなぎ | ③ | 完全変態 |
| ④ | さなぎ | ⑤ | 不完全変態 | | |

3 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

気温が高くなると昆虫は活発に活動をはじめます。これは昆虫が①(変温動物)動物であるためです。春の野には、モンシロチョウやテントウムシ、カマキリの幼虫やトノサマバッタの幼虫などが見られます。この4つの昆虫のうち、成虫で冬越するのは、②(テントウムシ)で、この昆虫は③(完全変態)と呼ばれる成長の仕方をします。春の早い時期にアブラナなどの花に集まる④(モンシロチョウ)は、⑤(完全変態)という成長の仕方をし、⑥(さなぎ)で冬越しします。そして、アブラナの仲間の植物に⑦(卵)を産み付けます。カマキリは、卵で冬越しし、温かくなると卵がかえり、たくさんの幼虫が出てきます。このカマキリは⑧(不完全変態)と呼ばれる成長の仕方をします。トノサマバッタは、地中に生みつけられた卵で冬越しし、春になると卵は⑨(ふ化) [=卵がかえること]します。このトノサマバッタの成長の仕方は⑩(不完全変態)と呼ばれます。

- | | | | | | |
|---|---------|---|--------|---|------|
| ① | 変温動物 | ② | テントウムシ | ③ | 完全変態 |
| ④ | モンシロチョウ | ⑤ | 完全変態 | ⑥ | さなぎ |
| ⑦ | 卵 | ⑧ | 不完全変態 | ⑨ | ふ化 |
| ⑩ | 不完全変態 | | | | |

4 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫は、体の外側にかたいからを持つ、①(外骨格)という体のつくりを持っています。そのため、②(脱皮)をくりかえして成長していきます。そして、時々、体のつくりの大きな変化もともないます。この大きな体のつくりの変化を③(変態)と呼んでいます。この変化は昆虫の種類によって異なり、チョウやカブトムシの仲間では、④(さなぎ)を作る⑤(完全変態)と呼ばれる成長をします。また、バッタやトンボ・蟬などでは⑥(さなぎ)を作らない⑦(不完全変態)と呼ばれる成長をします。そして、シミやトビムシの仲間は、一生⑧(はね)を持たず、同じ形のまま変わらないため、その成長を⑨(無変態)と呼んでいます。

- | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-----|
| ① | 外骨格 | ② | 脱皮 | ③ | 変態 |
| ④ | さなぎ | ⑤ | 完全変態 | ⑥ | さなぎ |
| ⑦ | 不完全変態 | ⑧ | はね | ⑨ | 無変態 |

5 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫には大きく分けて3種類の成長の仕方があります。チョウやカブトムシの仲間は、①(完全変態)と呼ばれる成長の仕方をし、卵→幼虫→さなぎ→成虫の順に成長していきます。卵から幼虫に変わることを②(ふ化)、幼虫からさなぎに変わることを③(ようか)、さなぎから成虫に変わることを④(羽化)と呼んでいます。バッタやカマキリ・セミなどの仲間では⑤(不完全変態)という成長の仕方をし、卵→幼虫→成虫と、チョウやカブトムシとは違って⑥(さなぎ)を作らずに成長します。この場合も卵から幼虫になることを⑦(ふ化)といいます。また、幼虫から成虫になることを⑧(羽化)と呼びます。そして、シミやトビムシの仲間は、卵からかえると、その形は一生の間ほとんど変わらないので、その成長の仕方を無変態と呼んでいます。

- | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-----|
| ① | 完全変態 | ② | ふ化 | ③ | ようか |
| ④ | 羽化 | ⑤ | 不完全変態 | ⑥ | さなぎ |
| ⑦ | ふ化 | ⑧ | 羽化 | | |

6 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

モンシロチョウは、春の早い時期から活発に活動を開始します。これは、冬の間①(さなぎ)の形で冬を越すからです。そのため、②(羽化)して成虫となり、春の訪れを告げる③(アブラナ)の蜜を吸い、その葉の④(裏)側に⑤(卵)をうみつけます。産み付けられた⑥(卵)はやがて⑦(ふ化)し⑧(幼虫)になります。この幼虫の間に⑨(4)回⑩(脱皮)を繰り返し、⑪(さなぎ)を作り、やがて⑫(羽化)し成虫になります。これを、1年のうちに何回か繰り返し、秋になると冬越し用の⑬(さなぎ)を作り冬を越します。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|
| ① | さなぎ | ② | 羽化 | ③ | アブラナ |
| ④ | 裏 | ⑤ | 卵 | ⑥ | 卵 |
| ⑦ | ふ化 | ⑧ | 幼虫 | ⑨ | 4 |
| ⑩ | 脱皮 | ⑪ | さなぎ | ⑫ | 羽化 |
| ⑬ | さなぎ | | | | |

7 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫の中でも、幼虫と成虫で大きく姿を変える①(完全変態)という成長の仕方をするものは、幼虫やさなぎの時には特別な呼び方をされるものがあります。たとえば、モンシロチョウの幼虫はその色から②(アオムシ)と呼ばれます。また、カの幼虫は③(ボウフラ)と呼ばれ、さなぎになると④(オニボウフラ)と呼ばれるようになります。また、カイコのように飼育される昆虫では成長の段階で細かく名前が付けられているものもあります。ふ化したばかりのカイコの幼虫は「けご」と呼ばれます。これらとは違った成長の仕方である⑤(不完全変態)という成長の仕方をするものでも、生活する場所が大きく変化するトンボの場合は、幼虫を⑥(ヤゴ)と呼んでいます。

- ① ② ③
- ④ ⑤ ⑥

8 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫は、その種類によって食べ物が著しくかたよっているものがあります。たとえばモンシロチョウの幼虫は①(アブラナ)の仲間の植物の葉しか食べません。アゲハチョウの幼虫はカラタチやミカン・サンショの葉を好みます。ですから、モンシロチョウでは、幼虫の時には草を②(かむ)口を持ち、成虫になると蜜を吸う③(ストロー)のような口を持つようになります。カブトムシの成虫では、木の幹などからしみでる④(樹液)を⑤(ブラシ)のような口でなめます。また、カマキリでは他の昆虫を⑥(かむ)口を持ち、セミなどでは、とがった口を木の幹や、幼虫では根に⑦(さして)て吸う口を持っています。

- ① ② ③
- ④ ⑤ ⑥
- ⑦

9 次の文の()の中に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

昆虫に似た、「虫」とふつうに呼ばれるものには、クモの仲間があります。クモの仲間は昆虫とは異なり、体は①(頭胸)と腹の2つの部分から成り立っています。そして、②(頭胸)の部分には③(8)本の足がついていることから、昆虫と区別することができます。

- ① ② ③